

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	2年	2	選択
担当教員			
前田 拓生			
A (会計学科)	S (専門科目)	FN (金融)	201 (中級科目)

授業のねらい (概要)	本講義では、事業体の維持・存続・発展に向けて適切な会計知識を持った人材を養成するために、事業体において「血液」に例えられる「マネー」についての仕組み・理論を習得する。また、マネーは国家の国境を容易に超えてグローバルに世界を動き回っていることから、国際金融市場についても学習する。基本的な知識を学んだ後、実際の経済事情を取り上げ、金融のはたす役割について学ぶ。 さらに本講義では、高崎市、富岡市、下仁田町等上信電鉄沿線の地域活性化に資するリレーションシップバンキングのあり方についても考察する。
授業計画	<p>第1回 【遠隔】本講義の進め方 ファイナンス論についての概要説明 予習 (時間) : シラバスを読み講義内容を理解しておくとともに、新聞、できれば日本経済新聞 (朝刊) を読む習慣をつけておく。 (120) 復習 (時間) : 講義中にメモをして内容を中心にノートの整理を行う。 (120)</p> <p>第2回 【遠隔】おカネとは そもそも「おカネとは何なのか？」を考察 予習 (時間) : おカネについて事前に調べておく。 (120) 復習 (時間) : 講義中にメモをして内容を中心にノートの整理を行う。 (120)</p> <p>第3回 【遠隔】ゴールドスミスバンク 現在の銀行の原型といわれている「ゴールドスミスバンク」を考察 予習 (時間) : ゴールドスミスについて事前に調べておく。 (120) 復習 (時間) : 講義中にメモをして内容を中心にノートの整理を行う。 (120)</p> <p>第4回 【遠隔】中央銀行と市中銀行 中央銀行としてイングランド銀行が誕生したことによって、生き残りのため、イノベーションとしての預金を生み出した市中銀行について考察 予習 (時間) : 中央銀行や市中銀行について事前に調べておく (120) 復習 (時間) : 講義中にメモをして内容を中心にノートの整理を行う。 (120)</p> <p>第5回 資金貸借取引 (異時点間取引) の問題点 金銭貸借の問題点について考察 予習 (時間) : 資金貸借について事前に調べておく。 (120) 復習 (時間) : 講義中にメモをして内容を中心にノートの整理を行う。 (120)</p> <p>第6回 直接金融ルートと証券システム 金融ルートとしての直接金融ルートについての考察 予習 (時間) : 直接金融ルートについて事前に調べておく。 (120) 復習 (時間) : 講義中にメモをして内容を中心にノートの整理を行う。 (120)</p> <p>第7回 間接金融ルート 金融ルートとしての間接金融ルートについての考察。ただし、ここでは間接金融の代表である預金取扱金融機関 (銀行) については言及しない。 予習 (時間) : 間接金融ルートについて事前に調べておく。 (120) 復習 (時間) : 講義中にメモをして内容を中心にノートの整理を行う。 (120)</p> <p>第8回 金融取引と情報の非対称性 情報の非対称性について、ミクロ経済学的な考察を行う 予習 (時間) : 「情報の非対称性」について事前に調べておく。 (120) 復習 (時間) : 講義中にメモをして内容を中心にノートの整理を行う。 (120)</p> <p>第9回 銀行システム 情報の非対称性を緩和する仕組みとしての銀行について考察するとともに、リレーションシップバンキングとは何かを解説する。またその際にリレーションシップバンキングの実践例として、高崎市、藤岡市、富岡市、下仁田町等上信電鉄沿線の地域活性化に資する信用金庫についても考察する。 予習 (時間) : 銀行システムについて事前に調べておく。 (120) 復習 (時間) : 講義中にメモをして内容を中心にノートの整理を行う。 (120)</p> <p>第10回 信用創造メカニズム マネーストックが創造されるメカニズムを考察 予習 (時間) : 信用創造メカニズムについて事前に調べておく。 (120) 復習 (時間) : 講義中にメモをして内容を中心にノートの整理を行う。 (120)</p> <p>第11回 金融政策とマネーストック 信用創造メカニズムを利用することで如何に金融政策が行われているのかを考察 予習 (時間) : 金融政策について事前に調べておく。 (120)</p>

	<p>第12回 復習（時間）：講義中にメモをして内容を中心にノートの整理を行う。（120） 【課題】貿易と外国為替の仕組み 国際的なマネーフローを考察</p> <p>第13回 予習（時間）：貿易や外国為替について事前に調べておく。（120） 復習（時間）：講義中にメモをして内容を中心にノートの整理を行う。（120） 【課題】内需拡大と経常収支 国際収支表についての見方を考察</p> <p>第14回 予習（時間）：国際収支統計について事前に調べておく。（120） 復習（時間）：講義中にメモをして内容を中心にノートの整理を行う。（120） 【課題】リーマンショック前後の経済金融情勢 リーマンショックが発生した要因をファイナンス論的に考察</p> <p>第15回 予習（時間）：「リーマンショック」について事前に調べておく。（120） 復習（時間）：講義中にメモをして内容を中心にノートの整理を行う。（120） 最近のファイナンス環境 カレントなファイナンス状況について考察</p> <p>予習（時間）：最近のファイナンス環境について事前に調べておく。（120） 復習（時間）：講義中にメモをして内容を中心にノートの整理を行う。（120）</p>
授業を通して身に付けることができる能力（DP）	<p>資金の流れ等を学ぶことにより、本学DPの「財務分析を行い、経営改善に関する助言を行える能力」を身に付けることができる。</p> <p>【身に付くスキル】 地域力・グローバルな視野</p>
到達目標	<p>下記の3つを到達目標に掲げる。</p> <p>①金融・証券市場に関する基礎知識や用語を習得する。 ②金融政策を理解し、政策効果等を評価ができる。 ③国内外の経済・金融事情について説明することができる。</p>
課題や小テスト等のフィードバックの方法	講義中に出した課題等に関しては全体的な注意点等を授業内で解説する。
履修上の注意	<p>経済学関係の科目を履修済み又は同時に履修することが望ましい。時事的な問題に関しても講義を行うので、新聞（できれば日本経済新聞）を購読することが望ましい。 なお、私語により他の学生等に迷惑をかけるものは退室させることがある。</p>
成績評価の方法・基準	試験（70％）、学修意欲（30％）
教科書	成熟経済下における日本金融のあり方 ISBN番号：978-4864292016 著者名：前田 拓生 出版社：大学教育出版 発行年：2013年 価格：2376円
参考書・教材	<p>【参考書】経済学とファイナンス（第2版） 著者名：大村敬一等 出版社：東洋経済新報社 発行年：2004年 価格：4320円</p> <p>【教材】テキストは『成熟経済下における日本金融のあり方』を使用する。しかし、講義では主にレジュメを利用して進行するので、mellyからレジュメをダウンロードして使用すること。テキストは復習に利用するほか、やむを得ず休んだ際に講義の当該箇所を読む等で利用すること。</p>
備考	<p>講義科目／実務家教員による授業</p> <p>第12回 当初シラバスの「授業時の講義内容」に充当する資料と「授業時の指示」を代替する資料の配信、および作業指示をmellyなどで行い、調査結果の小レポート作成や提出は当初シラバス通りに実施する。これらの指示確認等を5、6回の対面授業で行う。全体で330分の学修を想定している。</p> <p>第13回 第7回同様の実施として、指示確認を7、8回の対面授業で行う。全体で330分の学修を想定している。</p> <p>第14回 第7回同様の実施として、指示確認を9、10回の対面授業で行う。全体で330分の学修を想定している。</p> <p>成績評価の方法・基準欄の「定期試験」は、本学の感染状況への対応を踏まえて「最終レポート」で代替することがある。その場合には速やかにmelly及び授業で実施方法の詳細と評価基準を受講生に告知する。</p>
教員との連絡方法	メール（アドレスは授業内で周知）